

広げようふれあいの輪

市障害者福祉まつり

2006市障害者福祉まつり(同実行委員会、市主催)は10月1日、サン・アビリティーズ関を主会場に催されました。

市内から43団体が参加し、車いすや目隠し歩行の体験、手工芸品の販売、遊休品バザー、喫茶、ステージなどのコーナーを開設。各コーナーは、将来福祉の道に進みたいという高校生など多くのボランティアに支えられて運営され、やさしい笑顔と元気な声で接客する様子があちこちで見られました。

約1200人の来場者はふれあいを通して障害について理解を深めました。



「大きな古時計」など3曲を手話コーラスで披露する手話クラブ



流星飲料を飲みながら秋の夜長を楽しむ来場者

キラキラ光る流星飲料☆

旧東北砕石工場に登場

石と賢治のミュージアムにある旧東北砕石工場が9月9日から10月1日まで、不思議な空間が登場しました。旧東北砕石工場は晩年の宮沢賢治が技師として働いた工場で、平成8年に国の「産業近代化遺産」として登録されました。このイベントは、登録10周年を記念し、工場内の薄暗い空間にアーティストである小林健二さんの青く光る作品を展示し、神秘的な空間を演出したものです。

また、会場には「流星飲料」という天然の素材で作られた光る飲料水も登場。訪れた人たちは、初めて飲む「流星飲料」を味わいながら秋の日のひとときを過ごしていました。

24の心を一つに熱演

奥玉小金管クラブ定期演奏会

奥玉小学校(三浦哲朗校長・児童123人)金管クラブの第18回定期演奏会は10月3日、同校体育館で開かれ、4年生から6年生までの部員24人が奏でる音色を在校生や保護者、地域住民など約250人が楽しみました。

オープニングは同校の校歌を演奏。部員は大勢の聴衆を前に緊張気味の様子でしたが、徐々に緊張もほぐれ全10曲を見事に披露しました。フィナーレは保護者や地元住民の有志が加わり、フルートやキーボード、ドラムなどを担当し、『オペラディ・オペラダ』を共演。会場からアンコールの声とともに大きな拍手をもらっていました。



練習の成果を発表した奥玉小金管クラブ



さわやかな風を切ってスタートダッシュする選手

自己ベストを目指して

花泉地区小学校陸上競技大会

第33回花泉地区小学校陸上競技大会は9月21日、花泉運動公園多目的競技場で行われました。各種トラック競技や走り高跳び、ボール投げなどのフィールド競技に、小学4年生から6年生までの選手が出場。秋晴れの下、各小の応援団や父母らの声援を受け、選手は日ごろの練習の成果を競い合いました。

400mリレーでは、男女ともに金沢小が優勝。4年女子200mで千葉美雨さん(涌津小4年)が、オープン女子80mハードルで千葉紗希さん(油島小6年)がそれぞれ大会記録を更新し、合併により地区別の開催としては最後となる大会に花を添えました。

故郷に思いをさせて

在京むろねふるさと会

在京室根ふるさと会は10月7日、東京のアルカディア市ヶ谷で行われました。会員約50人と室根地域から小山自治区長ほか6人が参加。現在の室根地域の状況、今後の方向など、在京者との懇談のひと時を過ごしました。

今回、昭和35年の集団就職で折壁駅から列車で東京へ向けて出発する風景を記録した貴重な写真を佐藤忠信さん(折壁出身・葛飾区在住)から寄贈いただきました。現在、室根支所エントランスホールに掲示しています。



上 ふるさとの話に盛り上がる参加者
左 昭和33年、集団就職で故郷から列車で見送られる様子(寄贈いただいた写真)

まちのトピック

地域で開催されたイベントや身近なできごとを紹介します

in Ichinoseki

秋晴れの下和気あいあい

川崎町民体育祭開催

秋晴れに恵まれた10月1日、川崎運動広場を会場に町内26自治会対抗による川崎町民体育祭が催され、幼児から高齢者まで親睦を深めながらスポーツの秋を楽しみました。

徒競走に始まり、「交流Eポート(ムカデ競争)」など11の競技のほか、昼前には薄衣小児童のリズムダンスや門崎小児童の神楽も披露され、体育祭に花を添えました。

中でも、男女2人組でこの原理を使い、2個の空き缶をカゴでキャッチする「クリーン作戦」では、珍プレー・好プレーに笑いと歓声が沸きました。



息を合わせて、ナイスキャッチ!



愉快的猿回しのステージに見入る来場者

福祉への理解深める

社協ふくし祭り「ゆいっこ広場」

一関市社会福祉協議会(茂庭忠仁会長)の合併記念事業「社協ふくし祭り『ゆいっこ広場』」は10月15日、市民の大東保健センターで催されました。

福祉車両や入浴車の展示、人形劇サークルによる「人形劇の集い」、猿回しの上演、おもちゃの病院、フリーマーケット開設、各種屋台の出店などが行われ、訪れた親子連れらは、イベントなどを楽しんでいました。また、献血コーナーは待ち時間が出るほど多くの人が利用するなど、それぞれが福祉への理解を深めていました。